

水稲「LGCソフト」栽培上の注意点

株式会社 **サトケ**

「LGCソフト」は、一般に栽培されている品種に比べて消化されやすいタンパク質（グルテリン）含量が遺伝的に20～30%少なくなっている品種です。しかし米の総タンパク質含量を高める栽培を行うと、結果として一般のコシヒカリなどより消化されやすいタンパク質含量が高くなる場合も考えられます。したがって「LGCソフト」の生産において最も重要なことは、米の総タンパク質含量を低くすることです。そのためには、次のことを守って米の総タンパク質含量が上がらないように心掛けてください。

1. 施肥量は都道府県で示されている良食味品種栽培の基準量以上に施用しないこと

理由 窒素施肥量が多いと米の総タンパク質含量が高くなるため

2. 特に、穂肥の施用に当たっては施用時期、施用量に注意すること

理由 穂肥は収量確保の面から必要不可欠なものですが、施用量が多かったり、施用時期が遅い（出穂期に近い）ほど、米の総タンパク質含量が高くなる恐れがあるため

3. 健康食品を意識した有機栽培は行わないこと

理由 有機栽培は民間主導で進められており、化学肥料を用いた良食味生産技術に相当する技術が確立したとは言えない状況にあること、施用した有機質肥料が生育後半において後効きして米の総タンパク質含量が高くなるなど、化学肥料に比べて制御できにくいいため

4. 温度によって窒素成分の溶出が制御されている被覆肥料のうち、溶出期間の長い（100日以上）被覆肥料の一発施肥（基肥、追肥、穂肥同時施肥）は行わないこと

理由 溶出期間の長い被覆肥料は、施肥量にもよりますが高温年には溶出が速くなって生育後半に肥切れを起こすことがあります。また、逆に低温年には溶出速度が遅れ、生育後半に後効きして米の総タンパク質含量が高くなる恐れがあるなど、生育期間中の気温が大きく影響するので、肥効が制御できにくいいため

5. 育苗及び栽培時に明らかに草丈が異なる株は除去すること

理由 種籾の管理には十分注意を払っていますが、稀に変異等や異種混入により異なった品種が発生することがあります。

以上